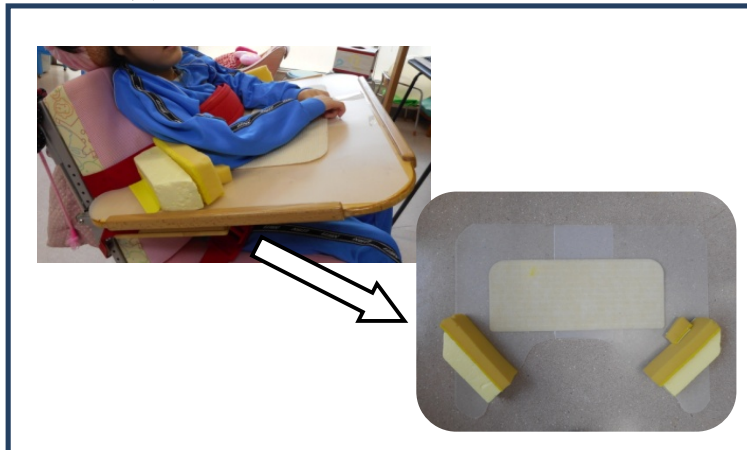


<図・写真>



<材料・製作方法等>

<材料>

- ・ 発泡スチロール製のブロック
- ・ スポンジ
- ・ 透明のパネル
- ・ 滑り止め（階段滑り止め専用）

<制作方法>

- 1 パネルを座位保持装置のテーブルに合うように切り取る。
- 2 肘の位置や上肢の可動域を調整しながらブロック+スポンジの位置を決めて装着する。

<ねらい>

- ・ 上腕を使って頭部を調整することができる。
 - ・ 上肢の操作性を高めることができる。
- （・ 緊張により上肢が後ろに引かれるのを防ぎ、身体の変形を防止するとともに、適切な力の入れ方を見に付ける）

<指導方法・留意点等>

- ・ 病棟で使用している肘置きの変わりに使用する。

<指導経過・成果・課題・展望等>

<指導経過・成果>

- ・ 対象児A児は、左凸の側弯のため、上体が右に傾きやすい実態がある。座位保持装置は、2年前に作成。上肢が使いやすいように配慮された座位保持装置であるが、成長に伴い徐々に合わなくなってきており、2年前よりも右に傾くことが多くなっていた。そのため、肘置きの下に角度をつけるクッションを設置（写真1）などの工夫をされていた。肘置きを使用すると頭部は上がりやすいが、上肢の可動域が狭かったり、肘を使うことが少なかったりするといった課題があった。
- ・ 本教具は、年度当初、自活部専任の先生にアドバイスをいただいて作成した。
- ・ 活用し始めてすぐから、上腕を支点にして身体を起そうする様子がみられた。
- ・ 上肢の使い方においては、可動域が広がるため、肘を浮かせて物をつかむなど、上肢の使い方が増えた。
- ・ PT、OTとも連携し、既存の肘置きと並行して使用していくようにした。

<課題・展望>

- ・ 年度当初よりも右に傾く時間は少なくなったが、完全になくなったわけではない。今後も引き続き、自立活動の時間を中心に頭部を起こす学習や体幹の力を高める学習を行うことで、頭部を起こす時間が長くできればと考える。